PRESS RELEASE　報道機関配布資料　高崎市 TAKASAKI CITY

令和８年１０月２１日

件名　　アートプロジェクト高崎２０２６を１０月２４日(土)から開催

高崎アートインキュベーション推進会議（会長：山﨑 健）は、１２回目となる都市型アートイベント【アートプロジェクト高崎２０２６（ＡＰＴ２０２６)】を１０月２４日(土)から、高崎駅西口の中心市街地で開催します（屋外アート展示)。

今回のテーマは、「ＡＲＴ　ＳＨＩＦＴ／アートシフト：日常を超える街」。見慣れた駅前やストリート、何気なく通り過ぎる街角に、多彩なアートが現れ、いつもの街が新たな表情を見せ始めます。

県内外から２８人の作家が参加。今年も高崎モントレー（ＢＵＲＵＭＯＲＩ、コバヤシ麻衣子）や旭町ビル（ＢＡＫＥＮＥＫＯ）に巨大アートを展示します。また、榛名湖アーティスト・レジデンスでも制作を行う照沼敦朗のほか、彫刻作家・野原邦彦のカプチーノをモチーフにした作品、高崎城址公園の松の木には鮫島弓起雄の雲のオブジェの展示など、個性豊かな作家たちの多様性に富んだ作品を展示します。

【イベント概要】

期 間 ： １０月２４日(土) ～ １１月２９日(日)

会 場 ： 高崎中心市街地、高崎モントレー、高崎ＯＰＡ、高崎髙島屋、慈光通り他

主 催 ： 高崎アートインキュベーション推進会議

共 催 ： 高崎市、公益財団法人高崎財団、一般社団法人高崎観光協会

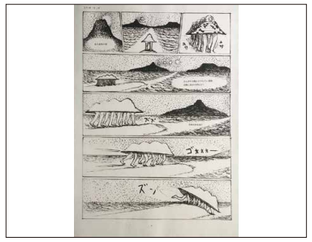
【本件に関する問い合わせ】
総務部文化課
電話：　027-321-1203

16. 岡田 菜美 [Nami OKADA]



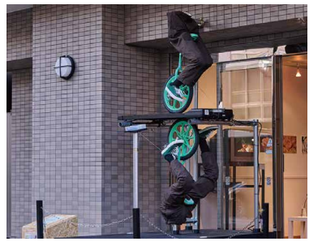
1991年群馬県生まれ。2016年多摩美術大学大学院修了。アクリル絵具を何層にも重ね、削り出す行為を繰り返す手法により、抽象と具象が交錯する風景を描く。近年の主な展覧会に2023年アーツ前橋開館10周年記念展「ニューホライズン歴史から未来へ」(アーツ前橋)、Mother New Yorkでの二人展、NANJO SELECTION vol.2「いつか見た青い影 / A Whiter Shade of Pale」(N&A Art SITE)、2025年Art Miami、Art Düsseldorf、浮世絵現代(東京国立博物館 表慶館)など。

17.19. 山口 啓介 [Keisuke YAMAGUCHI]



1962年兵庫県生まれ。1985年武蔵野美術大学別科実技専修科油絵専修修了。ACC、文化庁芸術家在外研修制度などにより海外に滞在。高崎市美術館、国際芸術センター青森、豊田市美術館、広島市現代美術館などで個展を開催。

18. 金森 昂大 [Kodai KANAMORI]



2000年奈良県生まれ。2024年武蔵野美術大学造形学部視覚伝達デザイン学科卒業。東京を拠点に、日常の中に潜む微細なズレや違和感をテーマに作品を制作している。主な展覧会に「アートプロジェクト高崎2024」(2024、高崎)、2025年「アートハウスおやべ2025」佳作、「NARITA ART RUNWAY」(成田空港)佳作。

20. 鮫島 弓起雄 [Yumikio SAMESHIMA]



1985年東京都生まれ。2010年東京造形大学美術学科彫刻専攻領域卒業。2015年より本格的に作家活動を開始。立体作品やインスタレーションを中心に、展示空間の特性やその場所の物語を取り入れた作品を制作している。地域の芸術祭やアーティスト・イン・レジデンスへの参加、ギャラリーや百貨店での展示などを通じて活動。2019年、不定期ミートアップ「Creatives' _.」およびアーティスト・イン・ホームステイ事業「JaM -Artist in Homestay-」を立ち上げる。

20. KHOOGJ

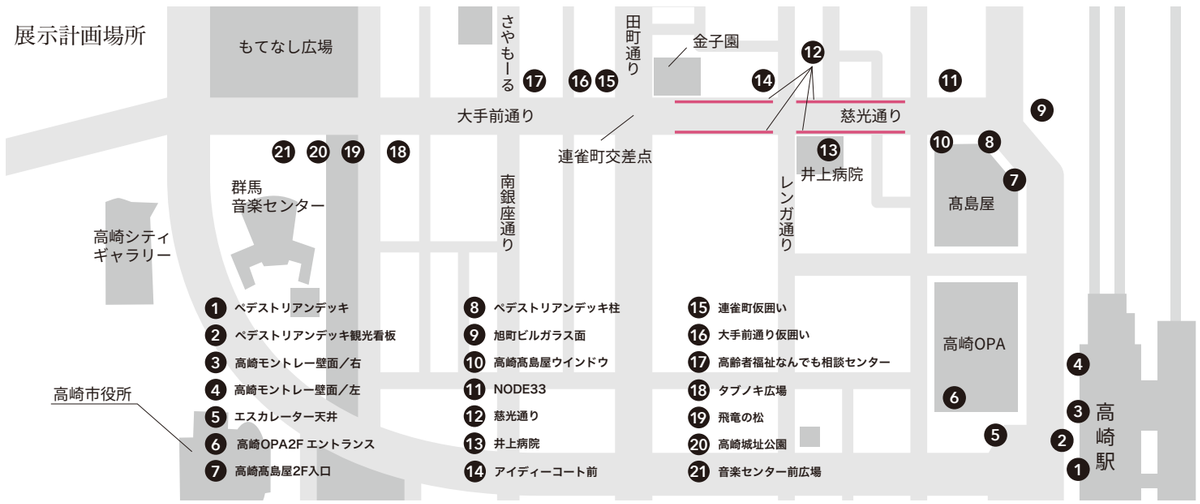


シンガポールを拠点に活動する写真家。作品を通して、人々の経験と、身を置く空間との関係性を探求している。
空間が、感情や思考にどのような影響を与えるのかを表現している。
光と色彩を通して、人と環境のあいだに生まれる深いつながりを浮かび上がらせ、人生や記憶にどのような影響を与えるのかを問いかけている。

21. 玉井 佐知 [Sachi TAMAI]



染色作家。京都を拠点に、型染めを用いて「人間」をテーマに独自の染色芸術表現を追求。美術館・ギャラリーに加え、駅構内、ホテル、公共施設、神社、道路などの野外にも作品を設置。2008年京都精華大学大学院修了。



Art Project Takasaki 2026

【アートプロジェクト高崎】(略称:APT)
[期間] 2026年10月24日(土)ー11月29日(日)
[会場] 高崎中心市街地、高崎モントレー、高崎OPA、高崎高島屋、慈光通り ほか
[主催] 高崎アートインキュベーション推進会議
[共催] 高崎市、高崎財団、高崎観光協会
[後援] ラジオ高崎

APT
ART PROJECT TAKASAKI

【お問い合わせ先】
高崎アートインキュベーション推進会議(ラジオ高崎内)
〒370-0849 群馬県高崎市八島町265番地 TEL.027-322-9195
http://taka-art.jp/2026/

WORKSHOP(詳細はホームページにてお知らせいたします)

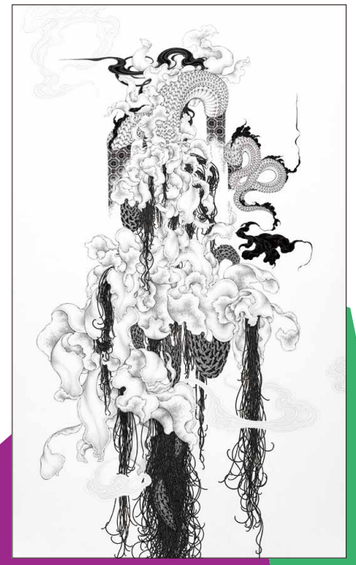
カセットプラントをつくろう!
カセットケースとドライフラワーなどを使って、自分だけの「カセットプラント」をつくってみましょう!
※カセットプラントとは、音楽用のカセットケースに樹脂とドライフラワーなどを封じ込め、窓ガラスに貼り付けて展示する作品です。

陶芸体験ワークショップ
ー陶芸の粘土に触れてみよう!ー
粘土の感触を楽しみながら、自由に好きな形をつくってみましょう!

小学生以下は保護者同伴でお願いします。
掲載内容は、都合により変更となる場合がございます。
あらかじめご了承ください。

ART SHIFT ー日常を超える街ー

アートプロジェクト高崎



高崎中心市街地、高崎モントレー、高崎OPA、高崎高島屋、慈光通り ほか



ART PROJECT TAKASAKI

明田 一久
いしばし めぐみ
井手元 咲良
岡田 菜美
金森 昂大
キール・ハーン
KHOOGJ
木暮 美紀
コバヤシ 麻衣子
鮫島 弓起雄
下山 直紀
髙田 和寛
玉井 佐知
照沼 敦朗
野原 邦彦
BAKENEKO
BURUMORI
BONYUKI
前澤 妙子
真下 京子
ましも ゆき
水野 暁
宮嵜 蘭
八幡 亜樹
山口 啓介
吉田 珠美
渡辺 元佳
渡辺 利恵





主催:高崎アートインキュベーション推進会議 共催:高崎市、高崎財団、高崎観光協会 後援:ラジオ高崎
協力:gallery UG、Kotona Art Direction、MK ARTS STUDIO、WA!moto. STUDIO.、石川画廊、四季彩舎
お問い合わせ:高崎アートインキュベーション推進会議(ラジオ高崎内) 〒370-0849 高崎市八島町265 TEL 027-322-9195
左上から、ましもゆき《分水嶺》2023年、Maiko KOBAYASHI《Dear Humanity》2024年、野原邦彦《カプチーノ MB Middle》2025年、山口啓介《カセットプラント豊田市美術館での展示風景(ディテール)》2015年

2026 10.24 sat — 11.29 sun

APT
ART PROJECT TAKASAKI

ART SHIFT／アートシフト　ー日常を超える街ー

ART PROJECT TAKASAKI 2026

2026年10月24日(土)～11月29日(日)

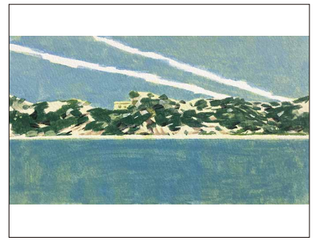
※番号は展示箇所を示しています

1. 野原 邦彦 [Kunihiko NOHARA]



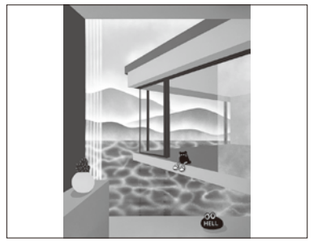
1982年北海道出身。2007年広島市立大学大学院芸術学研究科彫刻専攻修了。周囲と独立して感じる瞬間や、自分だけの空間のような感覚をもとに、記憶から排除されそうな自由、時間、欲望などを作品として形に残す。

2. 髙田 和寛 [Kazuhiro TAKADA]



1989年福島県いわき市生まれ。イラストレーション青山塾修了。高崎市在住。主にアクリル絵具を用い、日常の中で何気なく通り過ぎていくような風景や人物を描く。身近な景色や人々の姿に目を向け、日々の暮らしの一場面をイラストレーションとして表現している。第17回TIS公募入選。

3. BURUMORI



「弱さを肯定する」と「嗜虐心」をテーマに2022年より制作を開始。圧倒的に弱い存在であるハムスターをメインキャラクターとし、弱者が強者に抱くネガティブな感情や、懸命に生きる姿などを描く。

4. コバヤシ 麻衣子 [Maiko KOBAYASHI]



神奈川県横浜市生まれ、東京都在住。1998年武蔵野美術大学短期大学部デザイン科空間演出デザイン専攻卒業。2008年英国国立ノーザンブリア大学大学院修士課程修了。これまでの主な展覧会に「Songs Echo Memories」(2026、ソウル)、「Softly, One, Another.」(2025、東京)、「HOME」(2024、香港)、「BE HERE, FOR SURE」(2023、ニューヨーク)、「VOCA展2011」(2011、上野の森美術館)など。

5. 水野 暁 [Akira MIZUNO]



画家。現場での制作を軸に、絵画におけるリアリティを追求している。1974年群馬県出身。2001年多摩美術大学大学院修了。2004-05年コンプルテンセ大学にて美術解剖学を研修。2008年上毛芸術文化賞。2014-15年文化庁新進芸術家海外研修員としてマドリードに滞在。主な展覧会に2025年「水野 暁 視覚の層｜絵画の層」(群馬県立近代美術館)など多数。現在、東北芸術工科大学客員教授、武蔵野美術大学通信教育課程・女子美術大学 非常勤講師。

6. いしばし めぐみ [Megumi ISHIBASHI]



東京を拠点に活動。女子美術短期大学彫塑専攻卒業。自身の経験や記憶を題材に、希望や願い、悲しみや恐怖などから生まれる「不確かな存在」を多彩な色彩と立体造形で表現。国内外の野外展やAIRにも参加。

7. 渡辺 元佳 [Motoka WATANABE]



1981年北海道伊達市生まれ。2006年武蔵野美術大学彫刻学科卒業。
公共空間におけるアートワークを多数手がけ、アートを媒介とした社会実験を実践。代表作に《Happy Monkey Avenue》《YOUwe.》《HEY.》など。WA! Co., Ltd.代表、札幌「実験施設ZOKZOK」総合ディレクター。

8. 前澤 妙子 [Taeko MAEZAWA]



静岡県生まれ。2004年創形美術学校、京都造形大学卒業。2009年多摩美術大学大学院修了。2014年パリ国際芸術会館にて研修。アクリル、鉛筆、ペン、墨、パステルの粉などを用い、下書きをせずに、画材が生み出す表情をもとに作品を制作している。

9. BAKENEKO



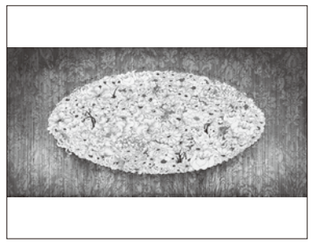
東京都出身。SCAD卒業。主な展覧会・イベントに、東京駅「Bungei Gallery」展示(2024、東京)、個展「NOWHERE」(2025、tHE GALLERY HARAJUKU、東京)、個展「STICK TOGETHER」(2026、tHE GALLERY HARAJUKU、東京)、POP-UP「DAMAGED GOODS」(2026、代官山 蔦屋書店、東京)、adidas「Play Your Style」コラボイベント(2026、adidas flagship store MIYASHITA PARK、東京)など。

10. 下山 直紀 [Naoki SHIMOYAMA]



1972年群馬県前橋市生まれ。2000年多摩美術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。動物の姿や造形の美しさをはじめ、社会や歴史、自然観、生命観などにまつわるメッセージを制作の要素としている。形を生み出す「彫る」という行為と、そこに込められた意味や物語を「語り継ぐ」という行為を結びつけ、作品として表現している。

11. ましも ゆき [Yuki MASHIMO]



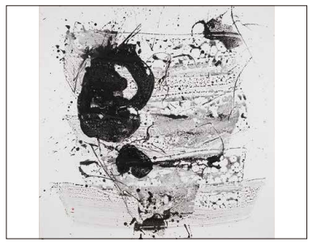
1984年群馬県生まれ。2007年東京造形大学卒業。花、蛾、文様など伝統的な日本絵画のモチーフを、丸ペンと黒インク一色で緻密に描く。高崎市美術館などで個展。2022年企業メセナ群馬芸術文化奨励賞受賞。

12. 渡辺 利恵 [Rie WATANABE]



1991年武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒。1995-97年フランスパリ1区アダックにて銅版画を学ぶ。1998年第49回 群馬県美術展初出品。以後、島崎庸夫に師事。2001年第25回上毛芸術奨励賞。銀座日動画廊昭和会展出品('02まで)。出品作「NO.53」が森村誠一「東京夜会」の表紙となる。2017年第68回群馬県美術展会員賞。2024年第83回創元展 SOMPO美術館賞。現在群馬県美術会理事／創元会会員。

12. 真下 京子 [Kyoko MASHIMO]



館林市出身。東京学芸大学書道科卒。国内個展15回。高崎シティギャラリー、煥乎堂、ノイエス朝日等。都内は有楽町朝日ギャラリー、ギャラリー・コンセプト21等。海外出展、ヨーロッパ巡回(日本現代書展スイス・ブルガリア)等。国内出展は「次元を超えて(横浜赤レンガ倉庫)」。
現代の書・新春100人展(銀座セントラル・ミュージアム)」等。

12. 照沼 敦朗 [Atsuro TERUNUMA]



千葉県出身。2007年多摩美術大学絵画学科油画専攻卒業。主な展覧会に「高松市美術館コレクション展」(2023、高松市美術館、香川)、「ヨコハマトリエンナーレ2017」(2017、横浜赤レンガ倉庫1号館、神奈川)、「VOCA2017」(2017、上野の森美術館、東京)、「感星の端」【PROJECT dnF】福沢一郎賞作家展(2015、東京)、「第14回岡本太郎現代芸術賞展」(2011、岡本太郎美術館、神奈川)など。

12. 木暮 美紀 [Miki KOGURE]



2014年「高真会展 ころがる金文」出品。2015-19年「現代の書と花」出品／「ライフアップスクエアアイズ」。2023年「Ten.Ten2023 in横浜赤レンガ倉庫～線のゆくへ～」出品。2024年「視覚の冒険者たち」(高崎市美術館)に出品。

12. キール・ハーン [Kjell HAHN]



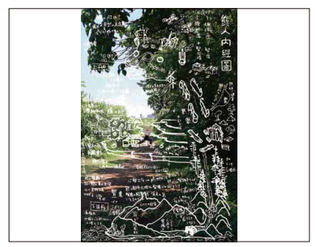
1978年アメリカ・ミズーリ州生まれ。2001年トルーマン大学卒業。
22歳で初来日し、2013年から群馬県藤岡市鬼石でアーティスト・イン・レジデンス「シロオニスタジオ」を経営し、これまで30カ国から約300人の外国人アーティストが滞在した。第25回(令和2年度)群馬県国際交流賞受賞。

12. 宮嵜 蘭 [Ran MIYAZAKI]



イラストレーター。京都精華大学グラフィックデザインコース卒業。高崎市在住。クレヨンや色鉛筆などを用い、植物や身のまわりの物を描く。対象の背景やそこに漂う空気感を直感的に捉え、イラストレーションとして表現している。広告やパッケージなどを中心に活動。

12. 八幡 亜樹 [Aki YAHATA]



現代美術家。東京藝術大学大学院先端芸術表現専攻修士課程修了。《手食web》の主宰・編集を務める。フィールド調査や取材を通じて得られた経験や情報をもとに、さまざまな領域を横断する作品を制作。映像とインスタレーションを主な表現手法として活動している。

12. 吉田 珠美 [Tamami YOSHIDA]



群馬県生まれ。女子美術大学短期大学部修了。主な展覧会に、個展「わたしはまゆのなか」(2024、cafe le cocon、前橋／広瀬川SHOWの一環)、個展「わたしのかみさま」(2024、PENSEE GALLERY、桐生)、グループ展「秋、酒蔵にて」(2019-22、旧廣盛酒造、中之条)、個展「発酵」(2017、natural vin bar le quai、高崎)など。2014年「例えば、それが芸術じゃなくても良い。」(cafe gallery 幻、東京・千駄木)にて、幻大賞、蜂鳥スグル賞を受賞。

13. 井手元 咲良 [Sakura IDEMOTO]



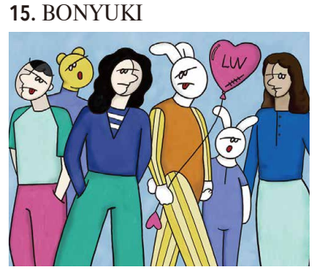
女子美術大学大学院修了。植物や自然、特に「庭園」を主なモチーフに、緑色を中心とした静謐な心象風景を描く。国際瀧冨士美術賞グランプリ、女子美パリ賞などを受賞。国内で多数の個展を開催している。

14. 明田 一久 [Kazuhisa AKETA]



1971年 高崎市出身、在住。1997年大阪芸術大学芸術専攻科美術専攻彫刻修了。
石との出会いは大学時代。専攻を迷った末、石に決めた。地球の欠片を扱えるという雄大さ、そして強さに惹かれたからだ。当初は在学中だけ石彫を学べたらという気持ちだったが、結局、石彫刻が面白くはまってしまい現在に至る。

15. BONYUKI



東京都出身。主な展覧会に、個展(2025、代官山 蔦屋書店、東京)、グループ展「SESSION」(2025、銀座 蔦屋書店・京都 蔦屋書店、東京・京都)、「ONE ART TAIPEI」(2026、台北・台湾)、「Mango Art Festival」(2026、バンコク・タイ)、個展(2026、銀座 蔦屋書店、東京)など。